

## 研究・開発志向を貫く 新たな価値創造へ情熱傾注

テイカ製薬株式会社  
代表取締役社長

松井 竹史 氏



昨年11月に、富山駅前の桜町に“富山のくすり”を前面に打ち出した「丹霞堂」をオープンされました。

「新幹線で富山に降りても、“くすりの富山”を感じられない」とよく言われたため、業界の皆様にお諮りし、社内アンケートもあって、自社で出店することにしました。古民家を譲っていただくことができ、第一薬品や松井製薬など江戸時代からの配置薬も承継しているので、1階で薬を販売

し、2階をカフェにしました。皆さんにとっても喜んでいただいております。創業は富山大空襲直前の1945年6月です。沿革を教えてください。化学合成による医薬品開発を行っていた第一薬品化成(株)と、水産物からビタミンなどを抽出して薬を作る(株)帝国水産加工研究所が合併して誕生しました。創業期から研究・開発を志向し、最新技術を取り入れて製品を世に出してきま

した。現在は医療用から一般用医薬品の自社製造と受託製造を手がけていらっしゃいます。

点眼剤、軟膏剤、貼付剤が3本柱で、売上高比率はそれぞれ約25%、20%、20%です。その他、固形剤やドリンク剤、液剤などを開発、製造しています。これらの技術で受託製造を進めています。

2014年には口腔内崩壊錠の「howatt (ホワット) 技術」がグッドデザイン賞を受けられました。

口の中で約10秒で溶け、水がなくても飲めるOD錠(口腔内崩壊錠)の製造技術です。他社製と比べても固くて壊れにくく、しかも今ある打錠機で製造できる技術を開発しました。

もともと当社では30秒くらいで溶ける錠剤を製造していましたが、原料が入手できなくなり、新たに開発した製剤技術です。単なる代替品ではなく、もっと可能性があります。この価値を理解してさらなる商品化を促しました。

具体的には？

通常のOD錠は直径8mm程度ですが、この技術では小さな錠剤も作ることができます。一般的に子供に錠剤を飲ませる際には、わざわざすり潰して少量を処方することがあります。現在、県薬事総合研究開発センターと共同で3mmの錠剤を開発中で、薬を飲む量の少ない小児や飲む力が弱くなったお年寄りにも、最適な薬を提供できるようになります。

### —品質をとことん追求—

松井社長は富山大学での研究者を経て、1970年に入社されました。

研究開発や品質管理、工場の立ち上げや管理など、営業以外はほとんど携わってきました。

1993年に薬事法が改正され、医薬品の製造と品質に関する基準が厳しくなった際、私は製造管理者として医薬品GMPのバリデーションやキャリブレーションの導入を進めました。「やるからにはとことんやる」という意気込みで、工場建屋を柱と屋根だけ残して全面改装もしました。大規模改修でしたが役員の方々も理解して下さり、思い切ったことをさせてもらいました。

創業以来、新しいものに着目していち早く製品化してきた先輩方の精神は、代々の経営者、従業員にも受け継がれています。

2005年には高薬理活性物質専門の軟膏工場が完成しました。

高薬理活性製品はステロイドなど強い効果を有する薬です。同じ製造棟で作っても良いのですが、品質を高めることと社員の安全を考えて、完全に別棟にしました。現在高薬理品はフル生産ですが、一般用軟膏剤もクロス・コンタミ(汚染・混入)の心配がないと品質を評価され、受注が増えました。

### —合理化進め、海外展開準備—

2000年から社長に就かれました。

前社長の急逝に伴う突然の就任でした。当時は経営会議などが少なく、挨拶回りの際に現状を確認して回ったことがありました。そこで、通常の会社にある取締役会

や経営会議、部長会などを設置し、経営の意思統一を図るようにしました。例えば、営業情報や要望は個々に開発に伝え、製造と相談し、経理に話をしてと効率が悪かったため、会議の場で情報を共有することにし、お客様への対応も間違わないように体制を整えました。

2010年には関係の深い第一薬品(株)と統合されることになりました。

両社のメリットを生かす一方、待遇面の均一化にまっ先に着手して社内の共通意識の醸成を図りました。現在、設備の合理化を進め、業容の維持発展に邁進しています。

従業員は私の社長就任時の約2倍、部長も20人を超えていますので、意思疎通の重要性が増していると感じています。

女性活躍についての取り組みは？

現在、課長以上の管理職79人中、女性は14人です。育児休業は早くから導入し、対象者は100%が利用し、現在も8人が取得中で、男性社員も1人利用しています。

将来の展望をお聞かせください。

現在の医療政策で薬価が一番のターゲットになっており、改訂される分だけ、利益に影響します。受託製造やジェネリックは今後減少が予想されます。創業当初からの「研究・開発の精神」で、新しい技術、製品の開発により力を入れていかなくてはいけないと思っています。



5Sを中心とした改善活動「TS-5S活動」のトップ診断

具体的な取り組みはありますか。

今年の創立記念日を前に、初の試みとして社内の「技術・研究発表会」を開きました。とてもユニークな将来が期待される発表があり、研究開発、製造それぞれから1人を表彰し、実用化へ向けて研究を進めています。

海外展開はお考えですか。

howattシリーズを県の「ものづくり総合見本市」に出展したところ、アジア諸国の水質の良くない地域の方の関心が高かったです。一般的な設備で作れるメリットを生かし、現地企業への技術提供の話を進めています。

近い将来、海外拠点を考えて、中堅クラスが中心となって検討を始めています。

座右の銘をお願いします。

「情熱」です。以前から好きな言葉ですが、創業者の金岡又左右衛門が作った「我等の信条」の一節に「常に、責任を自覚し、開拓者精神を以って、仕事に情熱を傾けます」とあり、社長就任時にこれを基本に経営していこうと決めました。ちなみに、社は「我等は奉仕の精神に徹し、お客様と共に繁栄を期す」。仕入れ先、納品先、実際に使われる患者さん、多くの人が関わる事業に、情熱を持って一生懸命取り組んで参ります。

### 会社概要

#### テイカ製薬株式会社

創業：1945(昭和20)年6月  
所在地：富山市荒川1丁目3番27号  
資本金：1億円  
事業内容：医薬品の製造販売  
従業員数：386名(2018年3月現在)  
売上高：99億1,300万円(2018年3月期)  
事業所：東京営業所、大阪営業所、丹波堂富山駅前店  
関連会社：テイカファーマ(株)  
URL：http://www.teika.co.jp/

### 略歴

1940年12月生まれ。富山市出身。1965年富山大学大学院薬学研究科修了。同大薬学部助手を経て、1970年帝国化成(株)(現テイカ製薬(株))に入社、取締役、常務などを経て2000年社長に就任。2009年～14年富山県薬剤師会会長。